

東京都に所属する会員の実態調査

記入日：2024 年 5 月 27 日
東京都シェアリングネイチャー協会 理事 司 涼

1.はじめに

2020 年 COVIT-19 による世界的な蔓延から早 3 年が経ち、我々の私生活の様々な面において、変化を余儀なくされました。東京都シェアリングネイチャー協会における活動においても、感染症対策としてマスク着用でのイベント開催、オンラインも併用した開催形式など形態を変えていきながらも活動継続をしてきましたが、当協会に所属する会員数（※）が減少傾向にあることが報告されています。

そこで、本プロジェクトでは当協会の会員に対し、コロナ後のシェアリングネイチャー活動の状況についてお伺いし、今後の活動方針の礎を築くことを目的としています。なお、この調査発表は 2024 年 2 月に行われた「シェアリングネイチャー☆まるしえ」で発表した内容を改善した最終報告書となります。

※当協会には東京都に住んでいない者も若干名会員の方がいます。その値はごく僅かのため、「東京都に住む会員」と「当協会の会員」を同義として扱っていますので、ご了承ください。

2. 内容

目次

1. 背景と目的	2
2. 都協会の会員の基本情報	10
3. アンケート調査と考察	21
4. 今後の展開	33

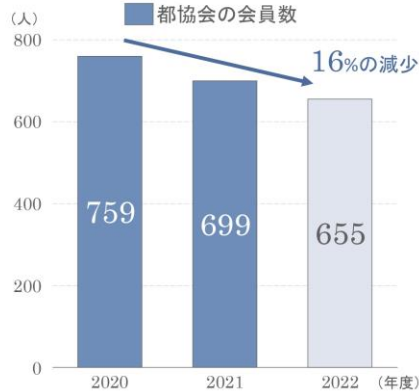
背景

1. 背景と目的

都協会の会員数は減少傾向にある。直近の2022年度では655名であり、この数値はコロナ禍が開始した2020年度と比較し、約16%の減少を表す。その原因には社会的な外出自粛ムードやイベント開催運営の制限などの感染予防対策の一環によって、やむを得なかった面があった。しかし、2023年以降コロナの状況が落ち着き、今後はアウトドア回復需要が期待される中で、会員数の減少方向は都協会の財政面や運営的な面など活動に支障をきたす課題である。

そこで、今回、当協会の会員に対し、コロナ後のシェアリングネイチャー活動の状況についてお伺いし、今後の活動方針の礎を築くため、本プロジェクトを試行した。

東京都シェアリングネイチャー協会の会員数の現状と課題



会員655名の
シェアリングネイチャー活動に
おける取組に対する実態を把握

2

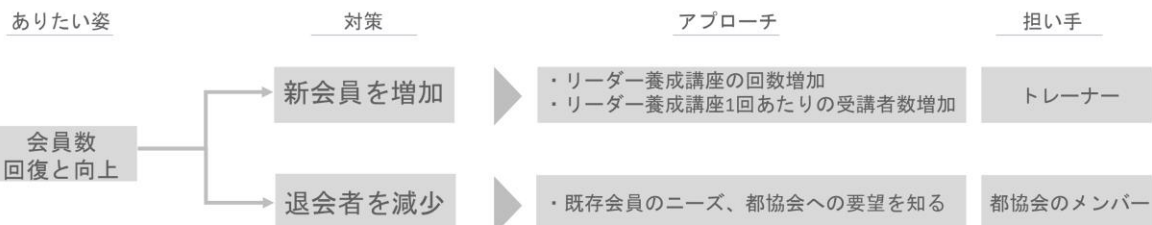
プロジェクトの着眼点

1. 背景と目的

会員数を向上させるには二つのプロセスがある。一つは新規会員を増加する方法である。この方法は、これから自然体験に興味がある、リーダーになりたいという方を対象にリーダー養成講座（以下L講座）を受講いただき、新規会員数を伸ばすことである。しかし、L講座の場合は担い手がトレーナーであるため今回のプロジェクトとしては適さない。

そのため、今回は「退会者を減少させる」ことに焦点を当て、既存会員のニーズ・今後都協会にして欲しいことをお伺いすることとした。調査方法はアンケート調査とし、幅広い要望や意見を拾うことを主眼とした。

会員数向上プロジェクトの着眼点



3

プロジェクトの着眼点

1. 背景と目的

会員数を向上させるには二つのプロセスがある。一つは新規会員を増加する方法である。この方法は、これから自然体験に興味がある、リーダーになりたいという方を対象にリーダー養成講座（以下L講座）を受講いただき、新規会員数を伸ばすことである。しかし、L講座の場合は担い手がトレーナーであるため今回のプロジェクトとしては適さない。

そのため、今回は「退会者を減少させる」ことに焦点を当て、既存会員のニーズ・今後都協会にして欲しいことをお伺いすることとした。調査方法はアンケート調査とし、幅広い要望や意見を拾うことを主眼とした。

会員数向上プロジェクトの着眼点

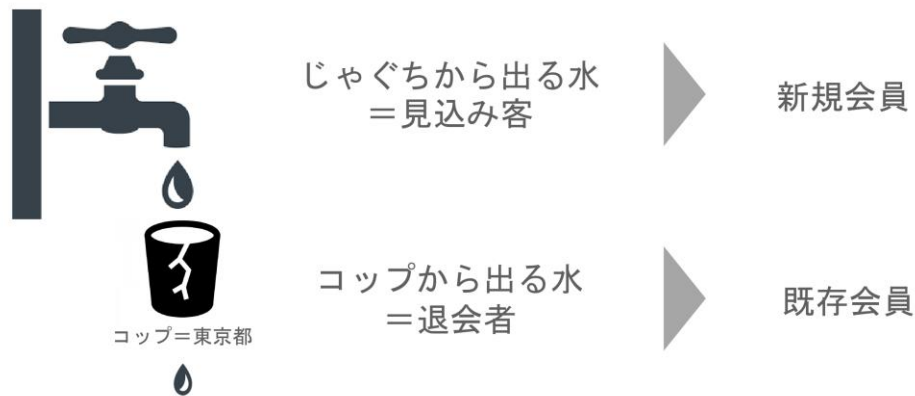


参考：プロジェクトの着眼点のイメージ

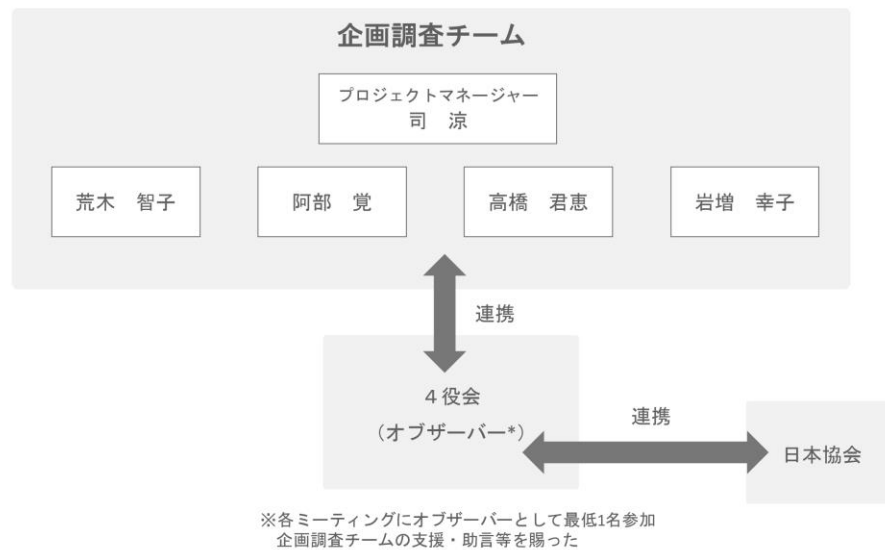
1. 背景と目的

下記の写真は会員数を向上させるイメージである。じゃぐちから出る水をシェアリングネイチャー活動のリーダーとして活動してみたい人とする、「じゃぐちをひねる」とはリーダー養成講座を開くことであり、日本協会やトレーナーの方々の活動領域となる。一方で、東京都というコップの中に入っている水を既存会員とする、ヒビの入った場所から流れしまう水が退会者という説明ができる。今回のプロジェクトでは、この割れたコップからいかに水を出さないか、言い換えると、既存会員をやめないようにするにはどうすればいいのかという点が「問い」である。

プロジェクトの着眼点のイメージ



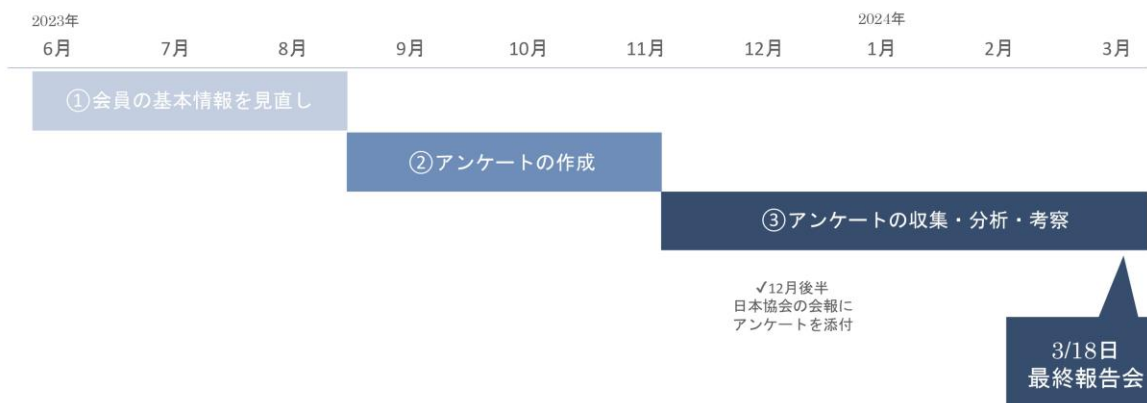
5



6

プロジェクトのスケジュール

6月～8月に既存の都協会の会員情報を日本協会と都協会事務局より頂戴し、現状の状況を整理しチーム内で共有した。その上で、9月よりアンケートの中身について作成し始め、デザインまで作成した。12月の後半に日本協会が発行する「自然とわたし」を含んだ会報の中に、本件のアンケートを添付した。その後、アンケートを収集し分析・考察を行い、本日の最終報告会へと至った。



7

アンケート調査概要

1. 背景と目的

調査目的は都協会のシェアリングネイチャー会員における現在の活動状況をお伺いすることとしている。具体的には、シェアリングネイチャー活動の頻度、地域の会の所属の有無、今後の都協会へのサポートの期待についてがあげられる。調査方法は2023年12月に日本協会が発行する会報に合わせて、アンケートを作成し東京都にお住まいの会員にお渡しした。回答者からの返送方法はQRコード回答、Email、FAXなど複数の方法を設け、より多くの回答いただけるよう配慮した。

*ただし、都協会には東京都に住んでいない者も若干名会員の方がいる。その値はごく僅かのため、「東京都に住む会員」と「都協会の会員」を同義として扱っている。

アンケート調査概要

調査概要	
調査目的	都協会シェアリングネイチャー会員（*）の活動状況
調査対象	東京都にお住まいの会員（2023年5月現在）
調査時期	2023年12月（日本協会が発行する会報発行するタイミング）
調査項目	入会年度・活動状況・今後、都協会への期待など
調査方法	QRコード回答、Email返送、FAX返送
調査用紙	色用紙や光沢紙など

8

アンケート用紙

1. 背景と目的

表面

2023年度会員向け活動状況アンケート

東京都シェアリングネイチャー協会

会員の皆様へ

東京都シェアリングネイチャー協会では、会員の皆様が充実したシェアリングネイチャーライフをおくれるよう、様々な事業を提供し、情報を発信してまいりました。

今後も皆様が楽しく充実した活動できるよう、活動状況をお伺いしたいと思っています。

こんな研修やってほしい、こんなイベント開催してみたい等、思いついたアイデア・ご要望いただけますと幸いです。

回答方法

いずれか一つお選びください。

①QRコード
②回答用紙に記入した上で、写真に
とらメール送信
③FAX送信
FAX：03-3645-1055
MAIL：r.tsukasa.sn2018@gmail.com
回答期限：2024年1月31日まで

QRコード

裏面

2023年度会員向け活動状況アンケート

あなたのリーダー養成講座受講以降の経過年数をお選びください。
※一般会員様は入会以降の年数

A.1年未満
B.1年以上～3年未満
C.3年以上～5年未満
D.5年以上～10年未満
E.10年以上～15年未満
F.15年以上～20年未満
G.20年以上～30年未満
H.30年以上～

設問1. あなたのシェアリングネイチャー活動の場をお答えください。
1.個人（家族も含む）
2.地域の会
3.職場
4.地域の会でも職場でもない組織
5.今は活動していない→設問3へ
6.その他（ ）

設問2. 現在活動している方に質問です。シェアリングネイチャー活動の頻度をお答えください。
例：年に●回程度
（ ）

設問3. 今後、東京都シェアリングネイチャー協会に期待するサポートについて、下記からお選びください（複数回答可）。

1.研修・セミナー（リーダー/コーディネーター/インストラクター向けのスキルアップのため）
2.ワークショップ（互方向の学習のため）
3.交流イベント（親睦のため）
4.情報発信
5.地域の会の設立支援金
6.人材育成/人材派遣
7.特になし
8.その他（ ）

設問4. 設問3で回答した事柄の理由・期待内容についてご記載ください。
（自由記述）

★地域の会に所属されていない方へ
にご質問いたします。
設問4. 今後、地域の会に加入してみたいと思いませんか。最も当てはまるものにお選びください。
1.とても加入したい
2.加入したい/加入の検討している
3.あまり加入したくない
（理由： ）
4.全く加入したくない/加入の検討していない
（理由： ）
5.その他（ ）

設問5. その他、東京都シェアリングネイチャー協会に対する質問やコメントがございましたら、ご記載いただけますと幸いです。
（自由記述）

回答期限：2024年1月31日まで

回答方法は前ページに記載しております。
ご協力ありがとうございました。
来年度の活動計画作成時に参考材料となります。

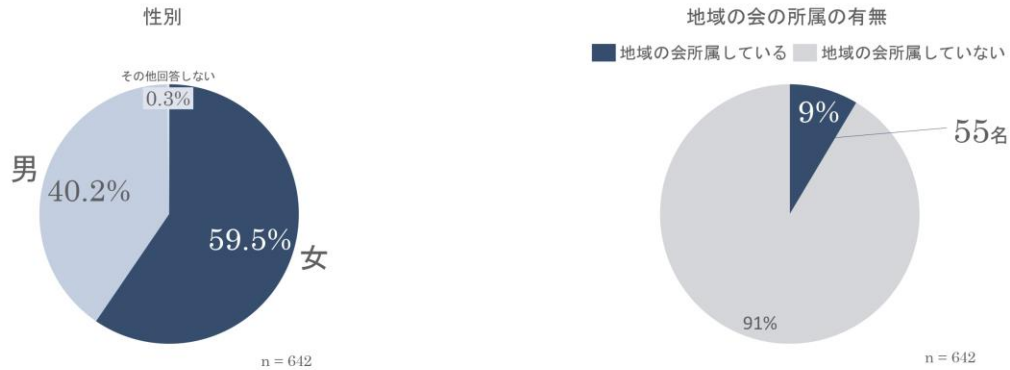
9

都協会の会員の基本情報

2. 都協会の会員の基本情報

都協会の基本的な会員情報について、左側のグラフは性別を示す。女性が60%、男性が40%程度であった。右側のグラフの地域の所属の有無について、都協会の会員のうち9%（55名）が地域の会に所属していることがわかった。

アンケート調査概要



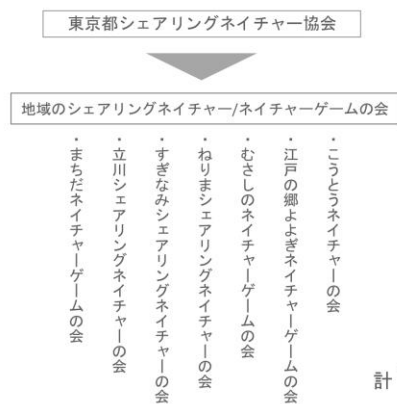
10

都協会の会員の基本情報

2. 都協会の会員の基本情報

東京都の地域の会は7つの会から成り立っている。東から江東区、渋谷区、杉並区、練馬区、武蔵野市、町田市、立川市、八王子市に地域の会が一つずつある。各地域の会の運営委員長は各会の地域を取りまとめるだけでなく、都協会の理事を務め、東京都の活動全体を支えている構造である。

東京都の地域の会の位置付け



東京都の地域の会の活動エリア



11

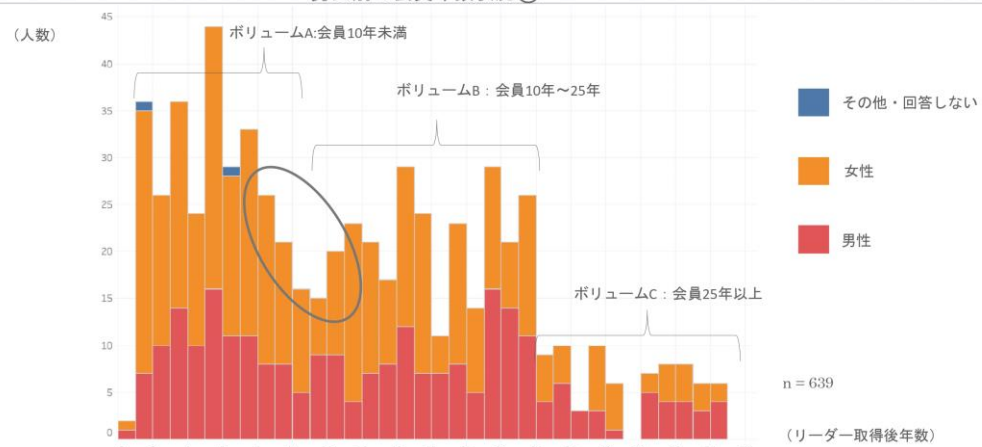
直近5年間の退会者の分析を行うと、左のグラフでは、自主退会とみなし退会（会費未払い等により退会とみなされた者）がおおよそ半分の割合であった。また、右のグラフの退会者の在籍年数をみてみると、5年以下が最も多く、全体の57.2%であった。

男女別の会員年数状況①



リーダー取得後の年数と人数の内訳についてである。男女合計した人数を年数ごとに比較すると、会員10年未満（ボリュームA）、会員10年～25年程度が（ボリュームB）、会員25年以上がボリュームCと3つに分けることができる。特に、9年～12年が明らかに減少傾向にあるが、その年の新規リーダー加入者が少ないもしくは退会者が集中している傾向にあると考えられる。

男女別の会員年数状況②

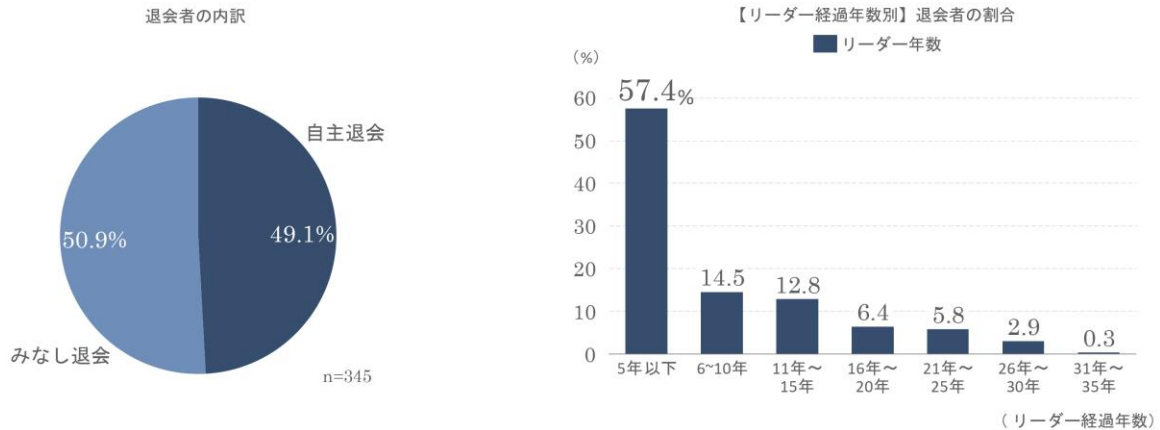


退会者の分析

2. 都協会の会員の基本情報

直近5年間の退会者の分析を行うと、左のグラフでは、自主退会とみなし退会（会費未払い等により退会とみなされた者）がおおよそ半分の割合であった。また、右のグラフの退会者の在籍年数をみると、5年以下が最も多く、全体の57.2%であった。

直近5年間（2023年3月まで）の退会者の傾向



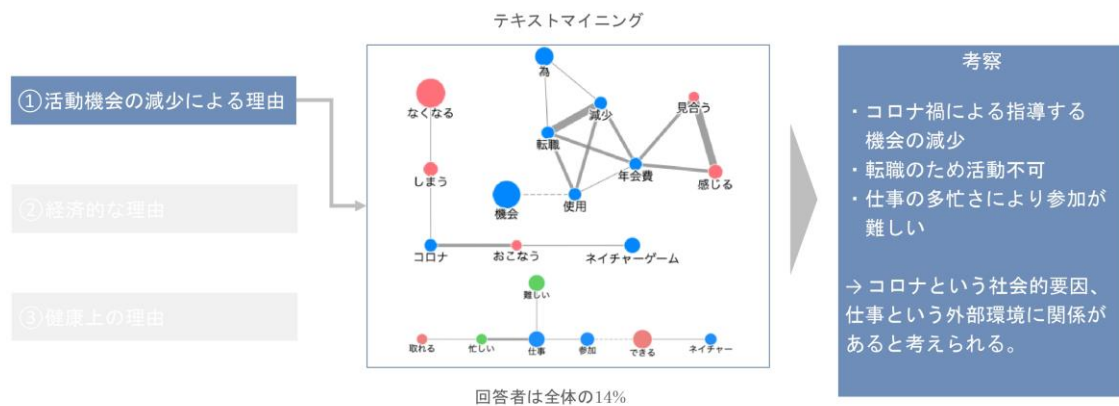
14

退会者の理由分析

2. 都協会の会員の基本情報

また、退会者の理由の文章を自由記述を言語処理し、頻出語や特徴語の結びつきによる手法を用いて分析した（テキストマイニングと呼ばれる）。すると、①活動機会の減少による理由、②経済的な理由、③健康上の理由の3パターンに分類できることがわかった。

直近5年間（2023年3月まで）における退会者の3つの理由

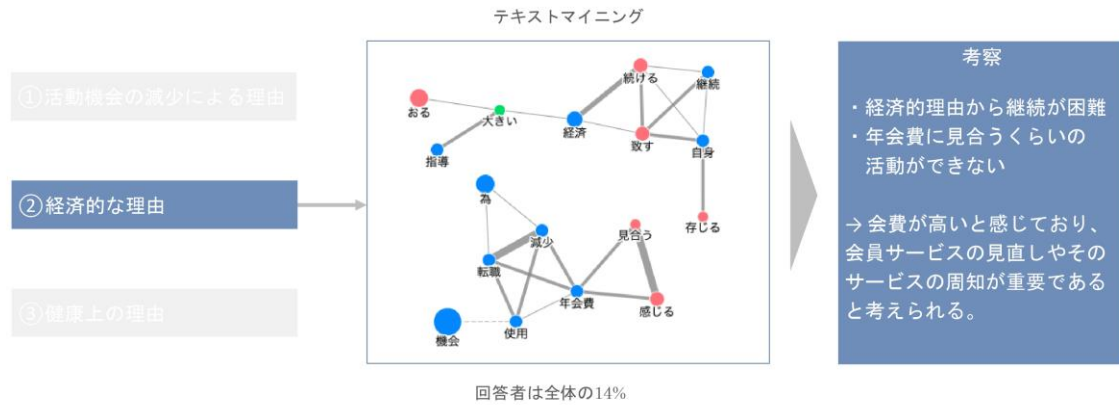


退会者の理由分析

2. 都協会の会員の基本情報

また、退会者の理由の文章を自由記述を言語処理し、頻出語や特徴語の結びつきによる手法を用いて分析した（テキストマイニングと呼ばれる）。すると、①活動機会の減少による理由、②経済的な理由、③健康上の理由の3パターンに分類できることがわかった。

直近5年間（2023年3月まで）における退会者の3つの理由



出典: User Local AIテキストマイニング

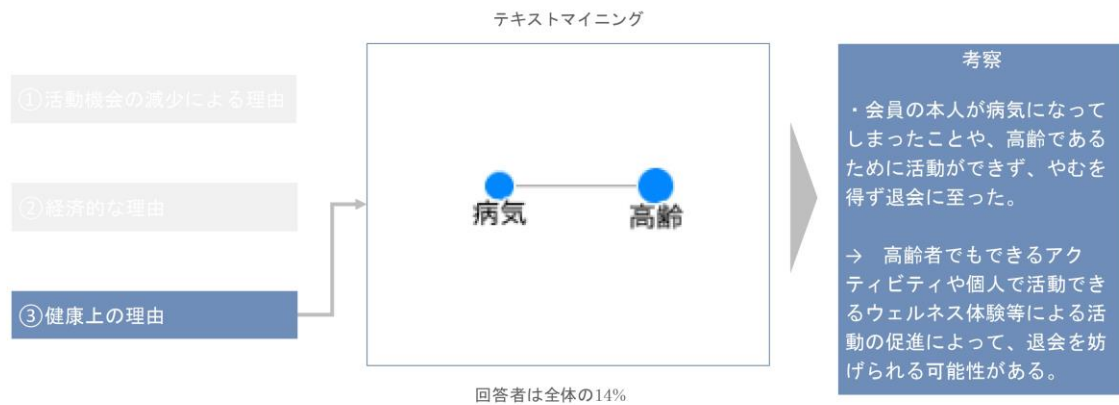
16

退会者の理由分析

2. 都協会の会員の基本情報

また、退会者の理由の文章を自由記述を言語処理し、頻出語や特徴語の結びつきによる手法を用いて分析した（テキストマイニングと呼ばれる）。すると、①活動機会の減少による理由、②経済的な理由、③健康上の理由の3パターンに分類できることがわかった。

直近5年間（2023年3月まで）における退会者の3つの理由



出典: User Local AIテキストマイニング

17

2. 都協会の会員の基本情報

会員区分と会員年数状況

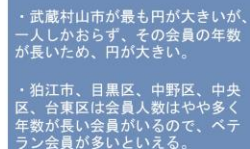


2. 都協会の会員の基本情報

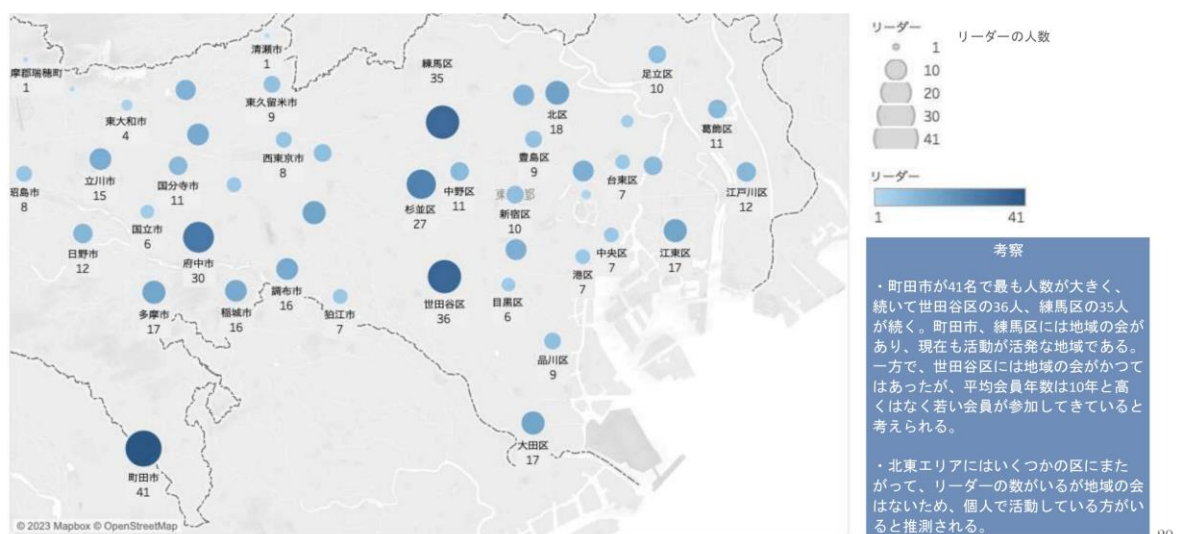
平均 会員年数

平均 会員年数

3.00 25.00



平均会員年数の地域区分

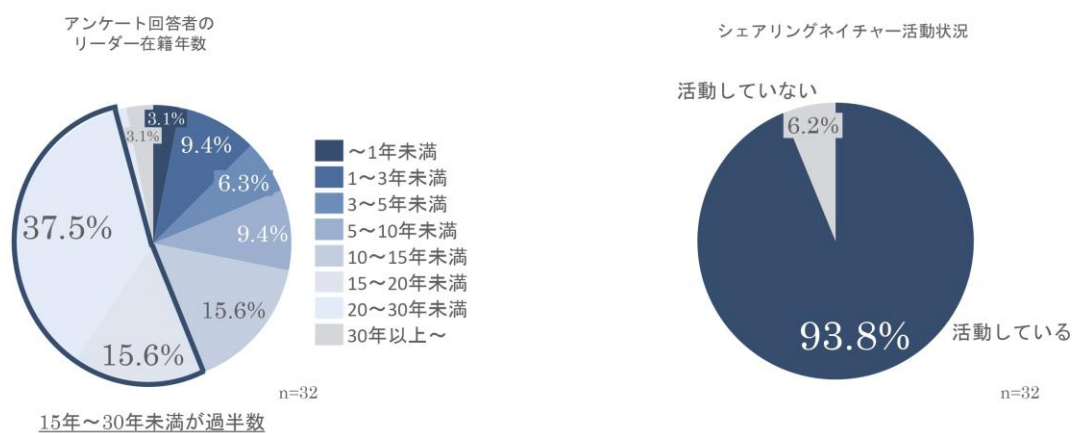


アンケート回答者の属性

3. アンケート調査と考察

下記はアンケート回答者の属性である。左のグラフでは在籍年数15年以上の回答者が過半数を占めた。また、シェアリングネイチャー活動状況は93.8%が現在もなお活動していた。そのため、今回のアンケート対象者として、シェアリングネイチャーを長年活動されてきており、現在も活動している方であるといえる。

アンケート回答者の属性

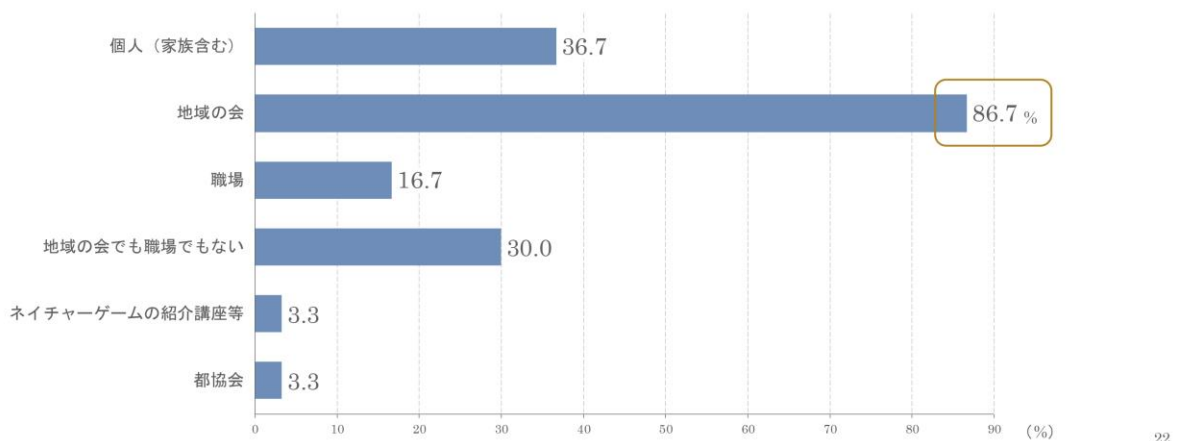


アンケート回答

3. アンケート調査と考察

シェアリングネイチャーの活動の場として、「地域の会」が86.7%で最も高い割合であった。次に高いのは、個人（家族を含む）による活動の36.7%、地域の会でも職場でもない場合が30.0%であった。

シェアリングネイチャーの活動の場所の割合（複数回答）



アンケート回答

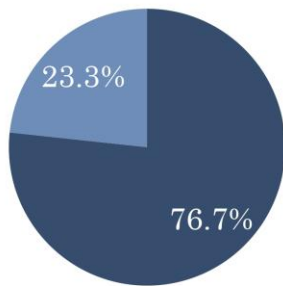
3. アンケート調査と考察

シェアリングネイチャー活動の頻度において、1か月あたり1回以下が8割程度を占める。一方で、1か月あたり複数回以上行っている者は2割程度であった。

シェアリングネイチャーの活動頻度

シェアリングネイチャー活動の頻度

■ 月に1回以下 ■ 月に複数回



n = 30

考察

■活動頻度の数え方について

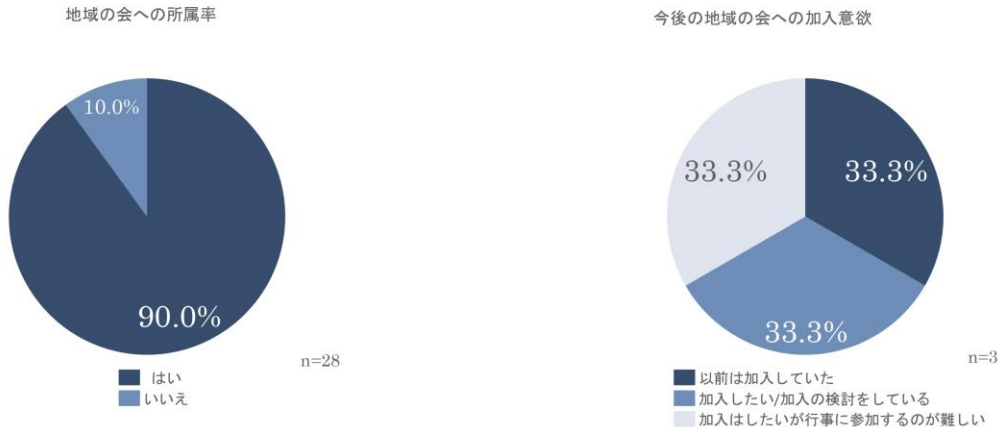
「年に数回」という自身の地域の会としての指導活動のみを含めるものもあれば、「毎日活動している」という回答もあった。「シェアリングネイチャー活動」は単に自分が指導した活動以外にももちろん含まれるため、このアンケート結果には「指導活動」のみ回答してしまった者も多く考えられるため、実際にはこれ以上の活動であると考えられる。

■今後の展開

一方で、シェアリングネイチャー活動を自身の指導活動とのみ考えている回答者が少なくないため、シェアリングネイチャー活動を個人で楽しむことができる「ウェルネス活動」を推進していき、相手がいなくても楽しめることを広めていくことが求められる。

地域の会への活動状況について、地域の会への所属率は90%であり、ほぼ地域の会に属するものが回答したといえる。地域の会に所属していない方は3名いたが、それぞれ、「以前加入していた」、「加入したい/加入の検討している」、「加入したいが行事に参加するのが難しい」の回答であった。

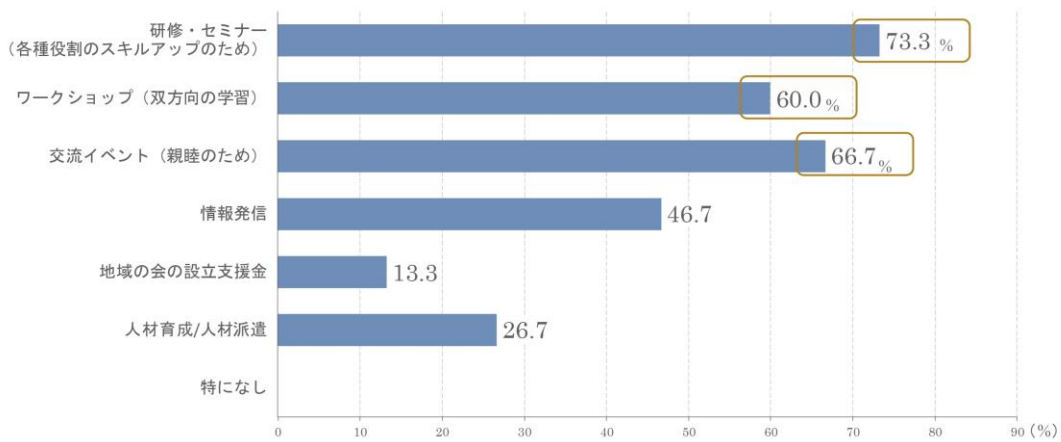
地域の会への活動状況



24

今後、都協会に期待するサポートとして、「研修・セミナー（リーダー・コーディネーター・インストラクターのスキルアップのため）」が最も高く73.3%、次に交流イベント（親睦のため）が66.7%、ワークショップが60%、情報発信、人材育成/人材派遣、地域の会の設立支援金に分類される。

今後、都協会に期待するサポート（複数回答）



25

今後、都協会に期待するサポートの理由・具体例

3. アンケート調査と考察

回答番号	回答者のコメント	都協会の返答
No.1	交流会があれば他の会員にも繋がるので	都協会の総会では毎年、交流会を行っております。例年5月の3週の日曜日に行っております。ぜひ、お越しください。
No.2	実践の具体的なポイントやアレンジなどを知りたいので。	毎年、FSやBSを通じて会員のスキルアップセミナーを実施しております。ぜひ、今後実施したい企画内容がありましたら、ぜひ都協会の事務局にお問い合わせください。
No.3	木の実や自然のものをを使ったワークショップとかウエルネス込みの散歩会とか絵本とネイチャーゲームのつなげるワークショップとか日本協会のグッツ使って遊ぶ会とか...	例年、総会を行う前の時間にゲスト講師をお招きしワークショップ・日本協会のグッツ活用等の時間を開催しております。内容を企画する際に検討させていただきます。また、ウエルネス散歩会についても来年度以降、検討してまいります。
No.4	地域の会・個人・その他に関わらず、それぞれのシェアリングネイチャー活動の活かし方（実践例など）の情報を共有できる場があるとよい。	今後の企画内容として検討いたします。
No.5	地域の会の活動以外にも、新しい情報を得たりスキルアップする機会が欲しいので	No.2の返答と同様
No.6	掲示板で情報を頂きますが、参加していないと個人会員はそれ以上の繋がりが無いため、双方向の情報交換の場は重要。	No.1の返答と同様
No.7	地域の会の活動をしていると、会員同士のアクティビティのやり方の確認やスキルアップの必要性を感じている。地域の会だけではなかなかできないので、都協会で行って欲しい。	No.2の返答と同様
No.8	それぞれの持ち味やスキルを体験しながら、相互にスキルアップし、今を味わいながら元気に生きる人を増やすべく皆さんで活動していきたいから。	-
No.9	スキルアップや情報交換などは大切なエネルギーであり、シェアリングネイチャーそのものである。	-
No.10	指導者同士交流等もっと活発にしたい	-

※回答者のコメントのうち感想であると判断できるものは都協会からの返答をしておりません。ご了承ください。

26

今後、都協会に期待するサポートの理由・具体例

3. アンケート調査と考察

回答番号	回答者のコメント	都協会の返答
No.11	新しいアクティビティやアクティビティの変わったヴァージョンなどを教えてほしい。	No.2の返答と同様
No.12	もっとシェアリングネイチャーをたくさんの人に知って欲しいので、さらなる発信が必要	ご指摘ありがとうございます。現在ではHP、Facebook、Instagramを通じて情報発信を行っております。今後も積極的に発信し情報拡散して参りますので、不足点がございましたら、都協会の事務局にお問い合わせください。
No.13	お互いに情報交換できる場がほしいので。	-
No.14	活動に役立てたいから	-
No.15	地域の会、発展継続と会員数増加の為期待する。	-
No.16	学習のため	-
No.17	ネイチャーゲームを組織的に推奨しており、指導者の育成を行いたい。	対象としている指導者が会員の場合、No.2と同様。指導者が未会員の場合、リーダー養成講座を毎年1回実施しております。また、日本協会主催や近隣県内でも行っております。ぜひ、お勧めいただけますと幸いです。
No.18	地域のネイチャーゲームの方との交流を通してゲームの質を高めたい	No.2の返答と同様
No.19	より色んな活動している方との交流をしたいと思い自分のアクティビティの幅を広げたいです。	No.2の返答と同様
No.20	スキルアップしたい。依頼はどうかあと思う？	No.2の返答と同様 地域の会で依頼事業等の運営が厳しい場合、都協会に対応することが可能でございます。
No.21	ウエルネスガイド研修・ウエルネスサークルをつくってほしい。アクティビティ開発やアクティビティのアレンジ研究会を開きたい。	No.2の返答とNo.3の返答と同様

※回答者のコメントのうち感想であると判断できるものは都協会からの返答をしておりません。ご了承ください。

27

その他のご質問・コメント

3. アンケート調査と考察

回答番号	回答者のコメント	都協会の返答
No.1	全国大会の実施が予定されていないので、都の中での活動の充実や親睦を図りたい。	都協会では毎年総会を行う時間帯の前に親睦会を実施しております。ぜひ、ご参加いただけますと幸いです。
No.2	アンケート作業、ありがとうございます。この情報が都教会としての新たな活動展開への道しるべとなって活用できます事を願っています。	ありがとうございます。
No.3	いつもありがとうございます!	-
No.4	ZOOMオンラインでの総会やアクティビティで盛りがって以来ご無沙汰しています。あの時に今後のことを色々検討したまま、時間が経ってしまいました。	-
No.5	いつも大変お世話になり、ありがとうございます。	-
No.6	地域の会の参加会員が少ないのでリーダー研修やフォローアップセミナーなど本部で集約して運営することも考えてほしい。	ご事情ご察し致しました。地域の会での運営が難しい場合、ぜひ、都協会までご連絡ください。
No.7	お世話になります。八王子NGの会は令和6年度から定例会を行いたいと計画中です。	よろしくお願いいたします。
No.8	毎年3月にセミナーがありますが、年度末は仕事で参加できないので、年によっては他の月に行ってほしい。	BSの時期について、今後検討いたします。
No.9	地域の会以外の情報発信があってもいいと思うけど、考えたらそういうコネクションが乏しいのがジレンマかもしれませんね	今後、都協会に期待するサポートの理由・具体例No.12の回答と同様
No.10	東京都シェアリングネイチャー協会の活動報告などを分かり易く会報誌などを通じて、広報して欲しい。	会報誌の時期ごとに、直近の行事の状況や今後の地域のイベントの開催をアナウンスしておりますが、今後、暫定的な年間活動カレンダーをお伝えできるよう検討してまいります。

※回答者のコメントのうち感想であると判断できるものは都協会からの返答をしておりません。ご了承ください。

28

その他のご質問・コメント

3. アンケート調査と考察

回答番号	回答者のコメント	都協会の返答
No.11	長年リーダーをさせていただいていますが、仕事の都合で土日に時間が取りにくいため、また、まとまった休みも取りにくいため、ステップアップの機会がつかれませんでした。何か機会を設けていただけたらありがたいと思います。	FSやBSを通じて研修事業を行っておりますが、運営スタッフや講師のご状況もあり、土日開催が多い状況でございます。今後、平日の研修も検討してまいります。
No.12	地域の会に参加型勉強会として指導してほしい。	今後、検討してまいります。

※回答者のコメントのうち感想であると判断できるものは都協会からの返答をしておりません。ご了承ください。

29

2024年2月10日に本プロジェクトのメンバーとオブザーバー（四役会数名）が集い、アンケート調査結果を振り返り、2024年度以降の都協会の活動計画を考えるためのプレストをした。

アンケート結果の振り返りMTG

日時：2024年2月10日（土）15:00～16:30
場所：オリンピックセンター センター棟104研修室
参加者：企画提案者・ファシリテーター：司
参加メンバー：荒木、阿部、岩増、高橋
オブザーバー：穂山、伊藤、園田
内容：15:00～15:20 今までの調査の振り返り
15:20～16:30
●都協会に期待することのコメント精査①
～事実情報の収集～
●都協会に期待することのコメント精査②
～解釈・考察～
●今後の都協会としてアクションすべきことを
～発表・共有～

当日の活動の様子



30

主な論点

回答者のコメント		参加メンバーの解釈
1	ネイチャーゲームを組織的に推奨しており、指導者を養成してほしい	組織的に推奨しているということは、他の自然体験に関する団体（ボーイスカウト・キャンプ協会等）に回答者が属しており、そこにかかわる方へ指導者養成してほしいと言い換えられる可能性がある。→「今後、都協会に期待するサポートの理由・具体例のNo.17の返答」
2	情報発信をしてほしい（地域以外のものも含む）	情報発信の機会の増加や発信する手段を拡大する必要がある。そのために、地域の会の発信の仕方の工夫を検討する。たとえば、Instagramではハッシュタグをつけて情報発信することが好ましいむさしの会ではFacebook、Instagramを行っている。Facebookの役割はイベントの情報発信であり、一方Instagramではむさしのの自然をテーマに発信している。SNSの効果として、他の地域の会（福岡、大分など）とのつながりを持つことができた。また、こうとうの会でもFacebook、Instagramを行っており、定例会の情報や下見の際の身近な自然を情報発信している。他の地域の会との交流ができるため、今後も行っていくようである。→「今後、都協会でもSNSを軸に情報発信を行うことで他の地域との情報の接点を持つことを検討する。」

31

主な論点

回答者のコメント		参加メンバーの解釈
3	新しいアクティビティ/アレンジの研修、スキルアップ研修の実施	これまでブラッシュアップセミナー、フォローアップセミナーという形で会員向けの研修を行ってきた。しかし、このような研修を行っていることを知らない人がこのような回答をしている可能性がある。年間の活動方針を総会で情報を提示しているが、年間行事予定までは公開してこなかった。そこで、今後は仮日程で年間行事カレンダーを作成し、発信することを検討する。 また、都協会ではWebサイト運営担当から、担当者変更の申し出がきている。年間4回程度しか更新していないが、今後は担当者変更も見据えて、別途協議する必要がある。前述したの総会の年間行事カレンダーの情報発信も、同時に検討する必要がある。
4	ウェルネスの散歩会の開催	神奈川県ではSNウェルネスの活動を散歩会という形で定期的におこなっている。今後は都協会でも都内で半日コースのウェルネス活動を検討する。
5	全国研を都協会ですべて担ってほしい (研究大会の中の2日目に行う交流イベントを開催してほしい)	都協会のみで運用することは厳しい状況である。関東ブロックでは似たようなことは過去に行ってきた。しかし、関東ブロックの中でも協会の運営状況が活発でないところもあり、立ち回りで行うことは難しいと考えられる(中国・四国ブロックのように団結して開催することは現実的に難しいと思われる)。また、コロナ禍以降、オンライン化のブロックミーティングになってしまったことから、対面方法の交流イベントの開催は困難である。

32

本調査の課題

4. 今後の展開

本調査を通して生じた課題と今後の調査の提言について整理する。

本調査の課題と今後の調査の提言

■アンケート回答者における課題

- アンケート対象が今回はほぼ地域の会に参加されている者に限られていた。

今後は調査手法の変更(メール一斉送信サービス)や日本協会にもお願いし、幅広い調査対象から意見をもらう必要がある。

■調査趣旨における課題

- 本調査の目的上、新規会員についての施策を練るための調査ではない。そのため、理事会では新規会員数を募るための施策、また、地域の会への加入を促す施策が求められる。

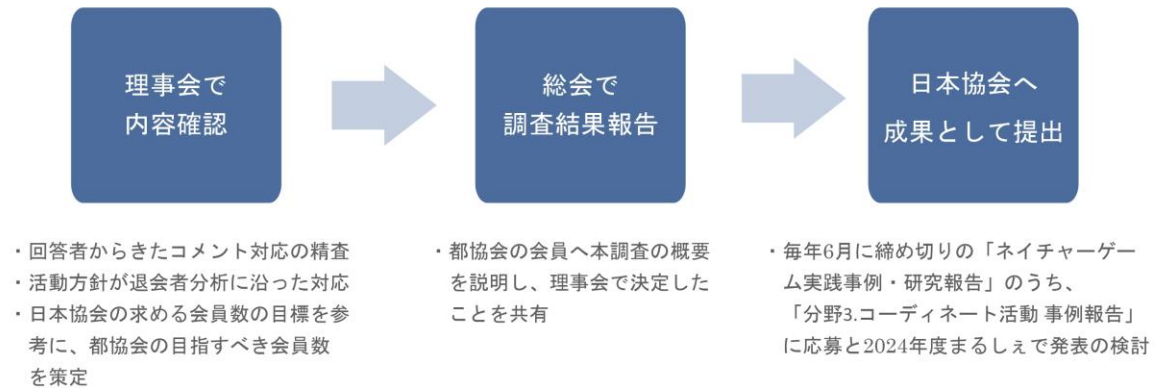
■今後の調査への提言

- 都協会の会員に行う調査は定期的に行うことが望ましい。人のライフスタイルや組織の状況を考慮すると、5年おきくらいが目処になると考えられる。

33

今後は会員サポートMTGという名での活動はしないが、本調査報告書を理事会へ提出し、来年度以降の活動計画の参考資料とする。その後、総会で調査結果を報告した上で、今後の方向性を会員に共有する。また、本調査結果を日本協会のネイチャーゲーム実践事例・研究報告と来年度1月～2月で開催予定の「まるしえ」で発表を検討する。

今後の活動



34

3. 成果と今後のアクション

■調査結果・今後のアクション

上記にも記載しておりますが、直近の退会者の傾向として①活動機会の減少による理由、②経済的な理由、③健康上の理由という具体的な理由が明らかとなりました。

まず、①活動機会の減少による理由について、「転職のため活動不可」「仕事の多忙さにより参加が困難」「コロナ禍による指導機会の減少」があげられます。前者の仕事に関する事由はやむを得ないと考えていますが、後者のコロナ禍による活動制限の事由は、一時的な状況であったと想定されます。当協会としては退会者へのアプローチをすることは困難であるため、貴協会において、今後休会したいと申し出る会員が生じた場合の一時的な休会措置や退会后、再度リーダー養成講座を受講する際の一部受講料割引といった救済措置をご検討願いたただけますと幸いです。

②経済的な理由として、「経済的な理由により継続が困難であった」「年会費に見合うくらいの活動ができない」という意見を頂きました。当協会では今後2つの対応策を検討しています。1点目は、ブラッシュアップセミナーの周知の徹底です。ブラッシュアップセミナーとは東京都に所属する会員向けの研修であり、当協会のインストラクターが中心となり指導者の役割を果たします。そのため、インストラクター自身の指導力の向上とともに、参加者はフォローアップセミナーよりも安い費用で参加できるという特徴があります。しかし、現状の課題として、研修の開催を認知していないケースがあげられました (p.32)。今後は、HP や SNS 等を活用し、積極的に情報発信できる体制づくりを築いていきます。もう1つの対応策として、助成金を活用した事業の検討です。こちらは、具体的な方向性は未だ決まっていますが、会員の皆様に金銭的な負担をかけず、イベントを開催できるような仕組みづくりを構築していきます。

③健康上の理由において、「会員本人の病気を患ってしまったこと」「高齢であるがゆえの活動継続の困難」等があげられました。一部の会員の方にとっては「健康上の理由」は仕方のない理由であると解釈しています。しかし、当協会では会員の方の健康状態によっては、むしろシェアリングネイチャー活動が健康増進を促す効果があると感じている方が少なくないでしょう。

たとえば、高齢であり福祉施設に通うことになった方、職場のストレスによって一時的に精神的に病んでいる方、組織や仲間の輪に馴染めず引きこもりがちの方など、「個人」の状態によっては、他者に「指導」する余裕がないかもしれません。一方で、「個人」でシェアリングネイチャーウェルネス活動をすることで、現状を改善し、いきいきとした生き方をおくれる契機となるはずです。

そこで、当協会では今後、シェアリングネイチャーウェルネスを軸とした新しい研修やイベントを企画していきます。また、ウェルネス活動という名称でなくとも、「個人」で楽しむことに焦点をあて、1人ひとりが自分らしく、ウェルビーイングな活動を積極的に取り入れていきます。

■本プロジェクトの課題

①サンプル数における回答者の偏りにおける課題

アンケート回答者のほとんどが、地域の会に所属している方でした。アンケート用紙をカラー版で光沢のあるものと工夫を凝らしましたが、気づかなかった方もいるかもしれません。今後はメルマガやDM（ダイレクトメッセージ）など他の調査手法も検討します。

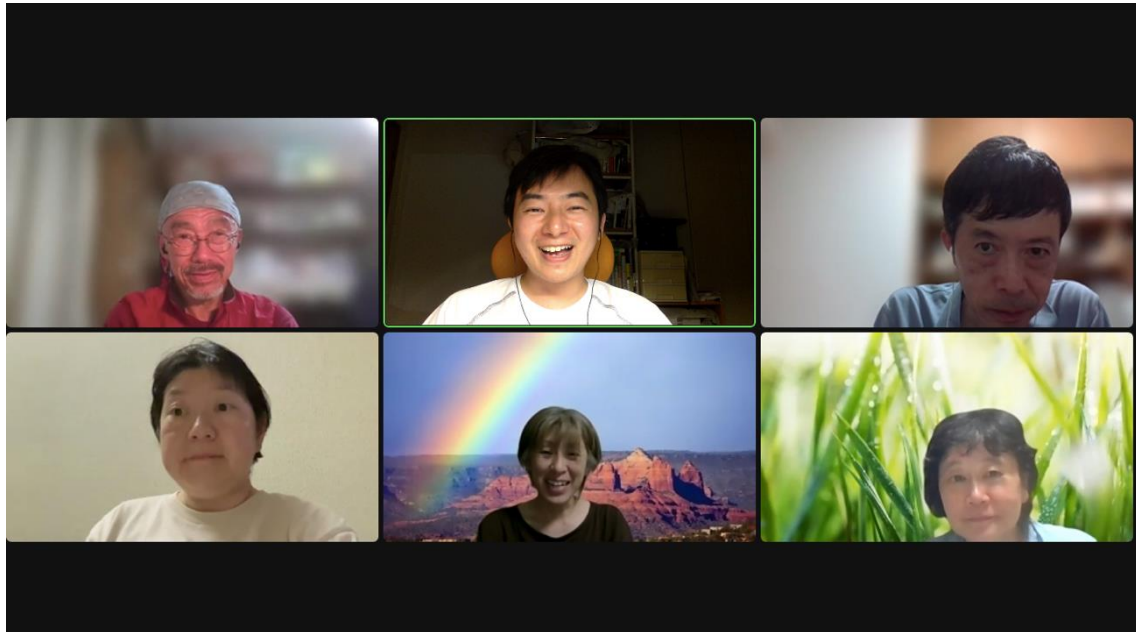
②調査趣旨における課題

本プロジェクトでは既存会員へのアプローチとして、シェアリングネイチャー活動の現状把握を目的に調査を進めました。一方で、新規会員の増加についても、会員数上昇をするためには欠かせない視点です。新規会員を拡大させる施策としては、リーダー養成講座の開催機会の増加や講座1回当たりの受講者数の増加等が考えられます。これらの具体的なアプローチは当協会だけでなく、貴協会にもお力添え頂かなければ対応が難しい状況です。今後とも、当協会では連携体制を整えます。

4.むすびに

本プロジェクトを通じて、当協会では既存会員のシェアリングネイチャー活動の現状を調査してきました。その結果、会員数の維持・拡大にはシェアリングネイチャーウェルネスの活動が重要です。「成果と今後のアクション」の「健康上の理由」の項目に記載したように、他者に「指導」できないために退会を選ぶケースが確認されています。しかし、その中には「個人としてのウェルネス活動」を求める人もいました。このような方々には、「ウェルネス個人会員」という、個人でも活動が続けられる制度が適していると当協会では考えます。「ウェルネス個人会員」は、「指導」はしない、けれど全国で行っているウェルネス活動への参加、「指導員向けイベント」への参加などを通して、少しでも「自分自身」が元気になれるような活動資格があるものです。もちろん、会員制度の見直しには貴協会の人的リソースや時間が必要となりますが、この会員制度改革について議論を始めることができれば幸いです。

5.活動写真



オンラインでの活動の様子